



【神の前で志を立てた人生】

本日の聖書:ダニエル書1:8-16・今週の暗唱聖句:ローマ人への手紙12:2

説教:鄭南哲牧師

(Rev. Jung Nam-Chul)

愛する信仰の家族のみなさん！一週間も主にあつて心も、体も守られ、魂に主から幸いを得られた一週間だったのでしょか。今週からGWが始まる主日の朝、我々を招いて下さる神の御言葉は旧約聖書全39冊の中で27番目になるダニエル書であります。ダニエルの名前の意味は“神が裁かれる”という意味を持っています。捕囚になり、奴隷として連れられた時のダニエルの年は16才にすぎませんでした。前回みなさんにエゼキエル書の時学ばされたように、神の預言者であるダニエルが働き用いられた同時代には3人の預言者たちがいました。エレミヤ、エゼキエル、ダニエルでしたが、エレミヤはイスラエルの南ユダの本土に残りながら、神の預言の活動をされた預言者であります。預言者エゼキエルはイスラエルの民たちと共に捕虜として連れられ、捕虜民たちと共にきつい労役(ろうえき)をしながら、神の預言者としての活動をされた方でした。しかし、今日今日の本文に出ている神の預言者ダニエルの場合はイスラエルの南ユダ王国が滅ぼされる20年前に捕虜として連れられましたが、卓越した若者として選ばれバビロンの宮殿の中で過ごしなが、活動された神の人であります。

<①ダニエル書の歴史的な背景>

イスラエルの別れた南ユダ王国の民たちの偶像崇拜と背教が挽回(ばんかい)できない状態に至ってしまい、神は彼らを懲らしめ裁かれました。それで当時の強大国であったバビロンに捕虜として連れられ、結局70年間捕虜の生活をバビロンで送ることになります。この点は何度も話されたので、みなよくご存知であると思います。

ところが、その過程の中で当時バビロンの王ネブカデネザルによって南ユダの王国が包囲され、完全に滅ぼされたのは、紀元前586年(B.C.)でしたが、実は南ユダ王国が滅亡される前からすでにイスラエルの南ユダの民たちの一部はバビロンの捕虜として連れられ始め全4回にわたって連れられて行ったわけです。その初めが紀元前605年、つまり、完全に南ユダの王国が滅ぼされる約20年前からでした。この始めの時期に連れられた南ユダの捕虜たちを第一次捕虜たちだと言われ、この第一次捕虜の時には、王族や貴族の人たちの中で連れられましたが、その中の一人がダニエルとその友達でありました(ダニエル書1:1-6)。第二次捕虜たちは8年後、紀元前597年、当時南ユダの王であったエホヤキン王を含めて管理者たちと1万人の軍事たちと技術者たちが連れられて行きました(第二列王記24:14)。神の預言者であったエゼキエルもこの時、捕虜として行きました。第3次の捕虜たちがまた11年後、586年エルサレムの滅亡と同時に南ユダの最後の王であったゼデキヤ王と民たちが連れられて行きました。第4次の捕虜は滅亡の後、紀元前581年に連れられて行きました。

今日みなさんと一緒に考えて見たいことはこれです。もちろん、みなさん、ダニエル書という御言葉はただ神の預言者ダニエルの個人の伝記ではありません。ダニエル書の後半7章以後からは神がダニエルを通して見させて下さったいろんな黙示が記録されているため、‘旧約の黙示録’だとも言われていますが、自分の国が滅ぼされ、絶望と苦しい環境の中で神の前で、信仰を守るためにどのような志を立てて、一生信仰が揺らぐことなく、様々な苦難を乗り越えていく事ができたのかダニエルの生涯を取り調べ、今日我々もこれからの一度の人生の道のりの中でどんな環境に置かれても同じく信仰の歩みと生活が出来るように目指して行きたいと思えます。

<②神のダニエルが経験していた苦しい環境>

実際に神の預言者ダニエルは自分の生涯を通して様々な耐えられないほどの苦しいことを経験してました。神に選ばれ、神ご自身が治めている国だと思った自分の国イスラエルが異邦の国であったバビロンという国によって無残(むざん)に踏みじられるのを自分の目で目撃し、耳で聞きました。信仰をもっていると思っていたユダの多くのイスラエルの人々は自分の信仰をすてて世の巨大な勢力にくっつけ、迷いなく偶像を拝んでしまう姿も見ました。それだけではなく、エルサレムの神の聖殿が異邦人たちの手によって破壊されていく時までも沈黙(ちんもく)し、黙っている神様にも深い嘆きと悲しみを感じていたのではないのでしょうか。しかし、まだ16才にすぎなかった若いダニエルでしたが、小さい頃から、家庭の中で、信仰の共同体の中で日々御言葉を学びながら、生きておられる神様との人格的な出会いと交わりがあったようです。

‘僕にはこの悲惨な辛い状況が理解できないけど、僕はかならず神様の計画があり、成して下さると信じている。たとい今の状況が厳しすぎであっても、神様は今も必ず生きておられ、ご自分の民を捨てないで、必ず見放さずに、見守ってくださいと信じる。’

このような絶対信仰を持ちながら、自分の祖国イスラエルで住めず、バビロンの捕虜の身となってバビロンに引き連れられて行ったはずであります。ところが、神様はたくさんの捕虜の中選ばれ、ダニエルを宮殿の中で住める特権を許して下さいました。当時征服者たちはいつも征服した国の優秀な若者を自分の近くにおきたがりました。なぜなら、それで、征服者たちの自分の国の文化や言葉などを教えそして訓練させて、征服した国を彼らを利用して治め続けるためであり、彼らがいることで政治的にも彼らを盾(たて)に取る事が出来るからでした。ダニエルと彼の友達もそういうわけで選ばれたわけです。表で見れば、彼らはだれもが見ても、捕虜出身なのに、宮殿の中で過ごせられた事なんてうらやましがられる祝福だったかのように見られたかも知れませんが、実はそうではありませんでした。

創造主である真の神を信じていたイスラエル民族であった彼らは全然違う環境への適用とともに大変な試練のテストを受けなければなりません。どんな試練のテストだったのでしょか。第一番目に彼らは神様の御言葉を学び神様を礼拝し賛美してた生活からいきなり異教の地バビロンでバビロンの文化や学問、彼らの宗教も習わなければなりません。

第二番目に彼らは自分たちの名前を全部改名しなければなりません。名前を強制的に変えられるというのはその民族の独自性を完全に消す方法でした。そういうわけでダニエル書1:7でダニエルにはベルテシャツアル(ベルよ。彼の命を守って下さい:‘ベル’というのはバビロンの主神マルドク(Marduk)、偶像を褒め称える意味である)、ハナヌヤ(神は慈しみ深い方意味)にはシャデラク(太陽の靈感:古代自然宗教の信仰儀式を崇拜する意味)、ミシャエル(神と同じ方がいるのか意味)にはメシャク(アク神のような方はどこにいるのか意味)、アザルヤ(神が助けて下さる)にはアベデ・ネゴ(ネゴのしもべ)と名づけられたのです。ここで改名されたバビロン式の名前の

意味でもわかるようにただ外国語の意味以上彼らが持っていた無理やりに信仰まで変えようとされていた事が分ります。

もう一つの困ったことは王の食べるごちそうや王の飲むぶどう酒を飲まなければならなかったことです。王の食べるごちそうを食べるのがどうして苦勞であり、大変な試練なのと疑う方もいると思いますが、私はもしかすると、ダニエルにとって一番大変なことだったかも知れません。当時バビロンでは2, 3日に一度宴会が開かれていました。その宴会を開く前に王はかならず、自分たちの神々に供え物をささげてから、食べ物を分け合って食べるということです。ですから、ダニエルにとってこの捧げ物をいただくというのはバビロンの神々の儀式に参加する意味でもあって、これはバビロンの神々が真の神であることを認めると同時に生きておられる神様を否定することになるからです。これだけではなく当時血のあるまま肉を食べたバビロンの慣習を守るとこれは旧約聖書のレビ記の17章14節のどんな肉の血も食べてはならないという御言葉に反することになってしまいます。当時王の命令に拒むことは悲惨な死を迎える時代だったのではないのでしょうか。このようにむずかしい状況の中ダニエルは生きておられ、共におられる神の御前で自分の信仰を守るために、そして、神の御心と御言葉に従うために志を立てます。8節によると、“王の食べるごちそうや王の飲むぶどう酒で身を汚すまいと心に定め身を汚さないようにさせてくれ”と宦官の長に伝えます。

愛する聖徒のみなさん！ここでダニエルの決断を通して私たちが見習わなければならないことを4つの姿と一緒に考えてみたいと思います。

まず、一つ目は信仰の純潔を守るために、神のために志を立てた事です。

もう一度8節をご覧ください。“王の食べるごちそうや王の飲むぶどう酒で身を汚すまいと心に定め”たと書いてあります。

ダニエルは自分がどんな不利になっても、強いて命や自分の人生をかけて信仰を汚さないためであり、究極的に神の御名が自分の行為を通して冒涇(ぼうとく)されないように、神のために志を立て行動にすぐ移しました。もちろん、我々が信じている創造主の全能の神様は我々の行いによって神ご自身が汚されたり、清められたり左右される方では決してありません。しかし、我々の行いを通して我々が信じている神をあがめることにも、神の御名を汚すことになればと聖書には書かれています。

“このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。”(マタイ5:16)

ダニエルは自分の信仰を守るため、自分の信仰を良心を守るため、すくなくとも神の御名が自分の間違っただけの行いや妥協によって汚されないよう、神様のために、信仰と勇気を持って志を立てたわけです。

我々もよく自分の目標や自分の夢など自分自身の有益のためにはよく志を立てます。もちろん、それ自体は決して間違いではありません。しかし、自分がイエスキリストを信じ、真の神を信じている本当のクリスチャンであるならば、我々の姿がいつまでこのレベルで留まっていたりはなりません。そのような方の祈りはいつも自分のことばかり祈ります。自分の祝福、自分の成功、自分の出世、自分の願い通りにしか祈りません。しかし、主が教えて下さったあの有名な主の祈りを深く探って見て下さい。

イエス様は自分に日用の必要さのためにも祈るようにも教えて下さいましたが、“天にまします。我らの父よ。主の御名があがめられますように、神の御国が来ますように。自分の心と願い通りではなく、神の御心が天で行われているように、地の上に、そして自分の関わっているすべての所の上に行われますように祈りなさいと教えられ、命じられたではありませんか。

愛する信仰の家族のみなさん！わたくし含め今まで我々は信仰を守るために、神様のために伴われるかも知れない損害や不利益の前では心悩みながらも、信仰の呵責(かしやく)を気付きながらでも、この世では仕方ないと妥協しながら神の御前で決断すべき瞬間を見逃したり、後回しにしたり、後には放棄してしまった時がよくあったのではありませんか。

みなさんは最近神様のみこころは何か、神の御名が汚されないようにどうするべきなのか、返って神様が喜ばれることは、神の栄光を帰するためどんな志を立てて決断し、行うべきなのか神中心に、聖書中心に従って決断しているのでしょうか。

“この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい(ローマ12:2)。”

みなさんが最近生きておられる神の御力と智慧を頂いてないようでしたら、まず、自分に神を信じて、勇気を持って神のために志を立てて決断しなかったために、神様も何にも御手を差し伸べて下さってないかも知れません。

まず、神のために信仰を立たせ、志を立てた時にこそ神はそれを実行し、成す力と智慧をも与えて下さる事を忘れないで下さい。

すぐは信仰の決断をする事が自分に不利になり、不安を覚える事になるかも知れません。しかし、生きておられる神様は必ずその決断に報いて下さるお方である事を信じて下さい。あの有名なローマ人への手紙8章28節と一緒にゆっくり読んで見ましょうか。

“神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、わたしたちは知っています。”

二番目に、ダニエルは心に定めた後、信仰の純潔を守るための自分の志を人々に迷わず知らせたことです。

ある意味で多くのクリスチャンたちは恵まれると、チャレンジを受けるとすぐ信仰の決断をする時があります。しかし、なぜ、その信仰の決断がすぐかなえられなかったのでしょうか。今日の本文8節の後半のダニエルの姿に注目して見ましょう。

ダニエルは信仰の決断をしてから、すぐ宦官の長に訪ね、自分の信仰の志を伝えています。聖書には書かれてませんが、きっと信仰の仲間たちであったハナヌヤ、ミシャエル、アザルヤにもダニエルの信仰の志を分かち合っ、共に祈りあったのではないのでしょうか。

(根拠: 12節: “しもべたち、わたしたちを”、17節: “神はこの4人の少年に” 3人の友達もダニエルと一緒に志を立てて、一緒に信仰の行動したため、4人とも共に祝福される。)

愛するクリスチャンプレイズの信仰の家族のみなさん！ 私たちもよく神の御前で勇気を持って信仰の決断をしますが、自分の心に定めたことを周りの人々に知らせないわけでサタンは神が喜ばれる志通り実行できないように試みに陥らせるために必死になります。段々とまどったり、不安が襲って来ます。信仰によって決断をしましたが、心の中で徐々に人間的な計算で自分の損得を数えるようになって、ついにはイエスキリストからの確信が揺らぎ、以前の生活パターンに引き連れられる場合が多いです。

たとえば、ある良いことのための献金をしようと心に決めます。はじめは何とか神が喜ばれる事ですから、神のためにある程度の献金をささげようと自分の心にだけ決めて、一晩寝ます。ところが、自分だけきめてあったので、半分にしても良いのではないかと思い、そして何週間経ったら、結局他の急用ができてまあ～今度にして、今回はなかったようにします。よくみなさん、こういう経験をした事はなかった

でしょうか。ですから、みなさん、いつも神のために、主の教会のために、信仰を守るために、信仰の志と決断した事を信仰の家族や周りに分かち合ってください。決して自分を誇るためではなく、自分の弱さと限界を認め、神様の前で信仰を守るために、心に定めたことが最後まで守られるように必要ではありません。薪(まき)をくべて、薪の火で続けて燃えさせようとする、まき一本だけではすぐ消えてしまうのではないのでしょうか。薪と一緒にする時、燃え続けられる事を覚えましょう。なので、信仰生活というの、生き生きしたクリスチャン信仰を保って歩むために教会で信仰の兄弟姉妹の存在が必要であり、大切ではないのでしょうか。

3番目に、細かいところかも知れませんが、学ぶべきほう一つの注目したいところがあります。それはほかの人に知らせ、志を伝える時のダニエルの謙遜な態度を取ったです。(12-13節)

12-13節を通して、信仰の決断を自分たちを担当していた世話役の人に話している姿勢に注目して見て下さい。

ダニエルは神様の前で定めた自分の信仰の決断を宦官の長と共に世話役の人に謙遜に申し出ます。

“どうか十日間、しもべたちをためして下さい。(12節)～あなたの見るところに従ってこのしもべたちを扱ってください。”

ダニエルはとても丁寧に宦官の長や自分の世話役の人に対して自分たちの主人として認め、相手を高く上げ、自分たちはしもべたちにすぎない者として自分を低く下げています。ダニエルは自分の民族を殺し、捕虜として無理やりに連れて来た不信仰たちであり、敵のバビロンの人たちに対してでさえも一生謙遜な態度は変わりませんでした。

後ダニエルはバビロン王だったダリヨス王から神に祈らないように、じゃなければ、獅子の洞窟入れさせ、殺す事が命じられた時にも変わらず、自分を殺そうとしていたダリヨスの王の前で謙遜に自分の信仰の定めを申し出ます。

“私は本来あなた様に従うべきの者です。しかしながら、私はもっと大いなる神様に祈り従わなければなりません。私の神様はきっとあなたにも悪いようにさせてくださらないと信じます。”

是非ダニエルの信仰の成熟された姿に注目し、彼の言い方、人に接し方などに注目して読んで見て下さい。

自分の敵や憎むべき相手にさえ、ダニエルは謙遜な姿は変わりありませんでした。その結果、9節には、“神は宦官の長に、ダニエルを愛しつくしむ心を与えられた。”、そして、6章のところでは自分を殺そうとまでしていたダリヨス王が変わり、ダニエルを通して神を信じ神をみんな恐れかしこみ、信じるように命令していました。ダニエル書6:26-28を捜し、共に読んで見ましょうか。

“私は命令する。私の支配する国においてはどこでも、ダニエルの神の前に震え、おののけ。この方こそ生ける神。永遠に堅く立つ方。その国は滅びることなく、その主権はいつまでも続く。27この方は人を救って解放し、天においても、地においてもしるしと奇蹟を行い、獅子の力からダニエルを救い出された。28このダニエルは、ダリヨスの治世とペルシャ人クロスの治世に栄えた。”

愛するみなさん！今日私たちも自分の信仰の志や決断などを回りに知らせる時には謙遜な態度を示さなければなりません。ある時、人は自分の主張が正しいと言いながら、相手に対して責めたり、叱責しようとしながら、無礼(ぶれい)だったり、失礼な言い方と取る場合があるため、相手の心が傷つけられ、もう心が閉ざされてしまう時があります。

愛するクリスチャンブレイズチャーチのみなさん、特に主の教会は神の愛を一生教えられ、学びつつ、その神を愛を持って仕えながら、謙遜に神の愛を实践するところである事を忘れないで下さい。いくら正しい内容で、良い知らせであっても、人はその人の人柄を見て、聞く耳を持ち、心を開く事を忘れないで下さい。我々が伝道をする時も、いくら真理の福音さえもその人の救いのために伝えようとする時もその人の無礼な、失礼な、高慢な言い方のため、世の人に断れ、無視される場合もあります。今日のダニエルを通して特にクリスチャンであるならばいつも謙遜を身につけて自分の信仰の決断と志を伝えて行きましょう。

四つ目にダニエルは比べられるようなクリエイティブな提案をします。ダニエルはひたすら信仰の純潔を守るために続けて断ったわけではありません。神を信じ、祈りながら、みんなが納得できる提案をします。その内容が12節～13節であります。つまり、十日間、王の食べるごちそうを食べる少年たちと野菜だけを食べる私たちと見比べてみてください。それから宦官の長にまかせます。みなさん。結果はどうなったでしょうか。15節です。“十日の終わりになると、彼らの顔色は、王の食べるごちそうを食べているどの少年よりも良く、体も肥(こ)えていた。”

愛する信仰の家族のみなさん。イエスを信じているクリスチャンの生き方は未信者たちと本当に比べられなければなりません。今日クリスチャンがこの世の中で無視されたり、さげすまれる一番大きな理由は別に信じなくても、言い方が、考え方が、生き方が、価値観が、信じていない人たちとあまりちがいがいがないからではないのでしょうか。日曜日には教会に行き、聖書はもっていながらクリスチャンだと言ってます。しかし未信者の方々が日常の生活を見たら、あまり違いがありません。比べることも、区別されることもなく、ほぼ同じに見えるのであれば、別にクリスチャンたちを見て信じたいと思われなくてもいいかも知れません。もしかすると、世の人たちはこのように本音を叫んでいるかも知れません。“イエスキリストを、真の神を信じているあんたたちであるならば、すくなくとも我らとは違う点があるのではないか。この世のわたしたちとはちがう生き方で生きてほしい。それを見せてほしい”というのはクリスチャンやキリスト教の信仰に対する世間では何かすばらしいところがあると期待感を実は持っていると思います。表だけかも知れませんが、人生の一番大事な出発を基督教の教会堂のようなところで結婚式をあげたいと憧れているのではないのでしょうか。数年前、ある日本の調査団体で、もし新しく宗教を持ちたいのなら、どんな信仰を持ちたいですかと言われた時、基督教が一番高かった結果を見た事があります。

今日の神の人ダニエルをみてみてください。自分の信仰の純潔を守るためにただ無条件的な反対や批判をしたのではなく、提案をもって彼らと話します。私はダニエルの姿をみながら一つ悟ったことがあります。自分が神様を信じながらクリスチャンとして未信者たちに認められているのなら、それはクリスチャンとして正しく生活している証拠になると思います。“彼はね、クリスチャンだって。教会に行っている人はやはりうちらと違うね。彼になら、信頼できそう、この仕事を任せてしっかり責任持って行けそう。”

愛する信仰の家族のみなさん！私たちは見えない神様存在と御力がどんなものかを自分たちの生活で表すべきです。そのためにもはっきりと神様の前で志を立てなければなりません。そしてその志を知らせるべきです。そして礼儀正しく謙遜につたえることです。クリスチャンとしての自己主張や批判ばかりではなく区別できるようにクリエイティブな提案を持つべきではないでしょうか。

<③ そのダニエルと信仰の友たちに与えられる神の報いと祝福>

この信仰をもって進んだ時、神様は働かれ、報い、祝福して下さいます。どのように祝福して下さるのですか。

第一に1章9節をどなたがよんでくださいますか。“神は宦官の長に、ダニエルを愛しつくしむ心を与えられた。”

神様の助けの御手はずで伸ばされていました。神様が目に見えるように直接働いてないため、今共にいないかも知らないと思わないでください。大変な状況の中にあってもダニエルは神様を信頼し信仰の志を立たせ、一步を踏み出しながら神に心から全てを委ねた瞬間、神様はその時からその信仰をご覧になって相手宦官の長や世話役の人、後にはバビロン王の心さえも動き彼らの心を変えてくださったのです。人の心も愛も、信頼も完全に得られられるとは本当にそう簡単じゃありません。世の人はだれかの心を得るために、金や酒や時間など何でも合わせてあげながら、その人に信頼をもっと得ようとしています。

しかし、人の心と信頼、愛などを得るために、まず、神の御心を何であるか探り、知り、ひたすら御心通りに従って見て下さい。限界ある自分代わりに、信仰をしっかりと立たせ、謙遜に全能なる神の御手に委ね、任せて見て下さい。人とすべての万物を造られた創造主なる神がその人の心と考えの中で働いて変えて下さる事を経験する事ができる信じます。

第二に神の本当の力を経験させてくださいます。今日は肉類より野菜類を食べるほうがもっと健康的であるのはみんな知っています。短期の期間に肉を食べたほうが顔色はいいのは当然です。しかし短期間にダニエルが畑の野菜ばかりをたべ、顔色がほかの王のごちそうをたべた人たちより良かったというのは奇蹟的な神様の働きであって、恵みそのものでした。神様のみを信じたダニエルとその友たちの顔色を神様が輝かせきれいにしてくださったのです。それだけではありません。

17節をみてみましょう。“神はこの四人の少年に、知識と、あらゆる文学を悟る力と智恵を与えられた。”状況の苦しさにもかかわらず、神様への信仰をもっていたダニエルと友たちに神様は若いとき一番求められることをも与えてくださいました。彼らに知識を吸収する力とそしてその知識を活用する智恵を力を、そしてそれらのすべてをわかまえ、悟れる明哲と聡明の力さえもあたえてくださいました。

神様の御言葉とおりに志をたてて謙遜に従っていけば、神様はそれにさらなる知識と見極める智恵の祝福をしてくださると信じます。ソロモン王も神様に喜ばされる祈りを捧げた時神様はソロモンが求めた智恵以外に富と栄光を与えてくださいました。**エレミヤ書33章の3節で神様は“私を呼べ。そうすれば、わたしは、あなたに答え、あなたの知らない、理解を超えた大いなる事をあなたに告げよう。”**と約束してくださりました。愛するみなさん。今年も神様に喜ばされる志を主の前で立てたでしょうか。

最近、みなさんの生活の中で神の前で自分の信仰を体を汚されそうなことがあれば、信仰を立たせ、大胆に断ち切ってください。そして神様の御言葉に照らしてみても自分が立てた志が神様の御心にかなったのかをもじっくり吟味し探る時間をとりましょう。そして、それを多くの人々にいつも謙遜を身につけて分かち合しましょう。征服された国の幼い少年ダニエルそして、3人の少年が自分たちを征服した国バビロンに影響されず、返って信仰の影響を及ぼしながら、神様をたてにして征服していく姿が私達とわれらの子どもたちの信仰の姿になりますようにと切に祈ります。巨大なこの世の環境にまけず、かえて信仰によって皆さんの周りを神の御心通りに変えて行くみなさんになりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン
アーメン。